



War Cry

5月号

福音版
2022
May
No.2834

二〇二二年 五月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

自分自身を喜んで生きる

朝澤 まりこ

最近よく、「三十代が着るべき服」「四十代がすべきヘアスタイル」「春のメイクはコレ!」「おしゃれな暮らしはこうあるべきだ!」というキャッチコピーを、SNSや雑誌の表紙

で目にします。現在母親として子育てをしている私は、子育てや家事に関する記事「素敵なママでいるためにすべきこと」の数々を目にする事が多いです。母親

ことが明らかにするため。わたしは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。」(コリントの信徒への手紙二 4章7-9節)

ら輝くのです。欠けていれば欠けているほど、その光は大きく輝きます。私たちの足りないさや欠点は、経験や努力によって補うことができることもあるでしょう。時間が経てば、求めている理想に近づくこともあるかもしれません。しかし、歳を重ねれば重なるほど、自分の足りないさや欠点が、決して自分で補いきれるわけではない、ということにも気づかれます。

世の中では、今の自分に向けた理想の姿が、様々なところで、とても細かく提示されています。それを見て素敵だなど感じることもありますが、現実の姿とのギャップに疲れてしまうこともたくさんあります。私

の力です。神様とは、この天地万物を創り、今も治めておられるお方であり、人となつてこの世界に来てくださったイエス・キリストです。イエス・キリストはすべての人の救いのために十字架に架かり、苦しみ、死なれましたが、三日目に復活なさいました。この復活のイエス・キリストが私たちの中にいてくださるとき、私たちはすばらしい器になります。苦しみと死に打ち勝った神様の力が、私たちの欠けているところか

神様は、私たちの欠けを完全に補い、またそれ以上にすばらしいものとしてくださいます。この神様を心にお迎えするとき、私たちは自分自身を生きていることができるのです。

私たちは、世の中の掲げる理想に到達することを目指すべきなのでしょう。その理想に追いつくようにがんばるべきなのでしょう。自分の足りないさや欠点は恥ずかしい部分で、隠さなければならぬのではありません。そうではありません。聖書にはこのように書かれています。

「土の器」とは私たち自身のことです。土なので、すでに欠けていたり、これから時間が経って欠ける部分もあるでしょう。土の器はそれだけでは、頼りない器です。しかしその中に「並外れて偉大な力」が注がれるとき、私たちは、苦しめられても、途方に暮れても、打倒されても、決して倒れることがないのです。

神様は、私たちの欠けを完全に補い、またそれ以上にすばらしいものとしてくださいます。この神様を心にお迎えするとき、私たちは自分自身を生きていることができるのです。



「ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであつて、わたしたちから出たものでない

誰かが掲げた理想の姿ではなく、自分の求める理想の姿でもなく、自分自身を喜んで生きていきたいと思うのです。神様が私たちの中にいてくださるなら、そのようなすばらしい人生を歩むことができるのです。

信仰の体験談 あかし 証言のページ

関根 悦子さん

(救世軍渋谷小隊所属)

自分をありのままに受け入れてくれる存在がいると知るとは、どれほど大きな安心感と励ましにつながることでしょいか。子育て、仕事、家事と「ジェットコースターのような」毎日を送っておられる関根悦子さん。日々の歩みを支える信仰について証言をお聞きました。

「いい子」でいることの苦しさを
感じた思春期「このままの私」を
愛してくださる神様を知って

救世軍の士官（伝道者）の家庭に生まれた私は、経済的には貧しくても神様に守られ、小隊（教会にあたる）の方々に祈られ親切にしてください、恵まれた環境で育ったことを感謝しています。しかし、一人の人間として今までの歩みを振り返ると、ジェットコースターのような山あり谷あり回転回りの歩みだったと思います。

幼い頃から毎週日曜学校に出席し、聖書の話がたくさん聞き、小隊で奉仕（礼拝の中での役割や小隊活動）をしてきました。士官である親は厳しかったので、いつも「士官子女（士官の子ども）」として自分はきちんとしていないといけない、と子どもながらに感じていました。しかし、思春期になるとものすごく苦しくなりまし

味をもち参加してみると、そこにいた先輩方は本気で神様が大好きで喜んでいて、いつも賛美して楽しそうでした。「なぜ私には喜びがないんだろう」と落ち込みました。サークルの先輩方が親身になって話を聞いてくれて、私のために一緒に祈ってくれました。

すみれはすみれのようにわたしもこのままの姿でついてゆきます」

しばらくして、救世軍の青年のための集いに出席したとき、ある士官の方が、イザヤ書四三章四節の

「わたしの目にあなたはあはれ高く、うつくしく、わたしはあなたを愛し（てい

る）」の箇所からメッセージをしてくださり、メッセージの後、「このままの姿で」という賛美をお一人で歌ってくださいました。

「小さな野の花でも主の愛をうけて輝くあふれる主のめぐみはいついつまでもバラはバラのように

「神様と生きる」ことを教えられた
アメリカでの生活

そうして救いの経験をして約二十年になりますが、神様は救ったまま放っておかれるお方ではありません。

結婚して三人の子どもが与えられましたが、時には先の見えない失望の底に置かれました。こんなつらいこ

たのです。何十回も聞き続けてきた十字架の話が自分のこととして迫ってきました。どんなに自分が嫌いでも、自分は「いい子」でなくとも、神様は私に価値があると言ってくださって愛してくださる、その無条件の愛が本当にうれしかったです。



写真

- ① 家族写真。アメリカ、ロッキーマウンテンで
 ② アメリカでのスー先生のバイブルスタディ（後列右端）
 ③ 渋谷小隊の仲間たちと（2019年、前列右端）



とが起るなら私は信仰は
 いらない、と思ったことも
 ありました。しかし、愚痴
 や怒りしか出ないような私
 の祈りにも、神様は応えて
 くださるお方でした。

思いがけず夫の仕事の転
 勤で、約四年間アメリカに
 住みました。夫はわざわざ
 転勤のない会社を選んで勤
 めたのに、地方から東京に
 東京から海外に転勤になり
 会社では前代未聞、異例の
 人事でした。すべてが神様
 のご計画の一部だと気づい
 たのは少し経ってからです。

もともと仕事に、家育
 児、学校・学童・保育園の
 係やたくさんの方々に追わ
 れて疲れきっていた私でし
 たが、アメリカに行ったと
 たん、家事育児以外何もな
 くなりました。

それで、近所で日本人の
 ためのバイブルスタディが
 あることを知り、すぐに参
 加するようになりました。
 昔日本で宣教師をされてい
 た方が、アメリカに戻って
 開いたバイブルスタディで
 毎週日本人女性たちが十数
 人集まっていたいました。そ
 の宣教師一家やクリスチャ
 ン仲間と過ごす中で、また
 聖書の学びを通して、「神
 様と生きる」ことを教えて
 もらいました。それは、日
 曜日に教会に通うだけでな
 く、日々すべてにおいて神
 様に介介していただくとい

一度、アメリカで事故を
 起こしそうになりました。
 雨の日に運転していて、緩
 やかなカーブを曲がってい
 る時にスリップし、ハンド
 ルを取られ、車は三百六十
 度以上回転しました。あわ
 ててブレーキをかけ、道路

わきの電柱と大きな鉄の箱
 の間にビタツと停まりました。
 た。もし対向車や後続車が
 いたら、電柱にぶつかって
 いたら、事故故に。しかし、
 車も私も同乗していた娘も
 無傷でした。その瞬間「生
 かされている」と思いまし

うことです。完全に神様に
 依り頼み、平安と喜びに満
 たされている人たちに出会
 い、私もこう生きたいと心
 から思いました。
 慣れない土地で大変なこ
 とも多々ありましたが、神
 様は私の想像を超える最善
 の場所に導き、休息を与え
 自分の要求ばかりで盲目に
 なっていた私の目を開き、
 「神様と生きる」ことはど
 ういうことかを実践的に教
 えてくださいました。

以前、失望の中でした私
 の祈りに、神様はその時は
 沈黙されていましたが、時
 を経て、優しく応えてくだ
 さったのです。祈っていた
 願いとは違う形でも、それ
 以上の祝福をいただきまし
 た。ただただ神様の憐れみ
 の中で私の信仰が守られて
 いることを感じます。

た。自分で「生きている」
 のではなく、神様に「生か
 されて」今ここにいること
 を改めて感じ、平安に包ま
 れました。

今でもジェットコースター
 に乗っています！ 子育て
 てしながら悩み失敗し、人
 間関係で傷つき、仕事で迷
 走します。私の感情は日々
 上がった下がったり。でも、
 私は不完全で弱くても、
 神様が完全で力あるお方だ
 と頼り祈る時に、前に進む
 力が与えられ、助けてくれ
 る人が必ず与えられます。
 ジェットコースターの終点
 となる天国では、完全な喜
 びと祝福が待っています。
 「わたしは、あなたたち
 のために立てた計画をよ
 く心に留めている、と主
 は言われる。それは平和
 の計画であって、災いの
 計画ではない。将来と
 希望を与えるものである。
 そのとき、あなたたちが
 わたしを呼び、来てわた
 しに祈り求めるなら、わ
 たしは聞く。」（エレミヤ書
 29章11〜12節）
 この聖書の言葉を信じ、
 「生かされている」間、し
 っかり神様にしがみついで
 日々楽しんで歩みたいで

生かされている日々、神様に依り頼み、 楽しんで歩みたい



世界をみつめて

〈日本〉

●冬季街頭給食報告

東京では昨年12月～今年2月に、週3回、大手町、隅田川、代々木において街頭給食をおこないました。スタッフの感染予防対策とともに街頭生活者の方々の健康に配慮し、マスク着用の声掛けの徹底、密を避ける対策をとって実施しました。コロナ禍の中、若い方や女性の利用も多く、2月最終回の大手町では109人が利用されました。これは年末の街頭募金・社会鍋に寄せられた資金による活動です。多くの方々の温かいご支援に心から感謝申し上げます。



〈東ヨーロッパ〉

●ウクライナの危機に際しての支援活動

2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻して以来、救世軍は他の団体とも協働して、この危機で大きな影響を受けた人々への支援を続けています。ウクライナの救世軍は、国内避難民の人々、また移動が困難で家にとどまっている人々に、温かい食事や日用品、毛布などを提供しています。また小隊（教会にあたる）会館や士官（伝道者）の住宅を開放し、緊急宿泊所として用いています。多くの難民が向かっているルーマニアやモルドバ、ポーランドの国境付近では、食料や衛生用品の配布とともに、通訳、避難先の住居探し、さらに、人身取引被害の恐れがあることについての啓発活動などを行っています。厳しい寒さの中で支援が続けられています。（3月末時点）最新情報、ご寄付については救世軍ホームページをご覧ください。



救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本での働きは1895（明治28）年に始まりました。

救世軍は実践的、行動的なキリスト教会として、神の愛に押し出され、主イエス・キリストがなさったように、分け隔てなくすべての人々のニーズに^{こた}えることを使命として世界中で活動しています。救世軍はロシアでは1901年から（ソ連邦時代は1923年から休止、1991年に活動再開）、東ヨーロッパでは1993年からウクライナ、ジョージアで活動を始めており、この度の緊急事態においても、各地で速やかに支援が開始されました。真の助け^{ぬき}主である神に信頼し、平和を祈り求めながら、困難の中にある人々に仕える働きを続けています。

- ①ウクライナのドニプロでは、避難先に向かう列車を待つ人々が駅に集まっています。救世軍はそこで温かいスープを提供しています。
- ②ルーマニア：ウクライナから東欧諸国に避難した女性や子どもがだまされて人身取引の被害になる事例が起きています。救世軍ではルーマニアとウクライナの国境地点にウクライナ語を話す支援チームを配置して、避難者が人身取引の被害者にならないための注意情報を提供しています。
- ③モルドバ：ミハイレニ村に設置されたウクライナからの避難者の受け入れセンターで、支援品とカウンセリングを提供しています。
- ④ポーランド：プシェミシルの駅で、救世軍国際災害対策室のメンバーと現地の救世軍の信徒が協力して支援にあたっています。

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日（除く7月）
定価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円
（税込）クリスマス特集号（12月1日号） / 1部100円
振替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881（代表）
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。